

もつと知りたい！

撮影／青木崇 貝原弘次 前田博史
取材文／伊藤順子 金子花央理 野上知子 一幡祐子 イラスト／山村真世

兵庫の神様・神社のこと。

初詣、十日戎に厄神さん。一年で一番神社に足を運ぶことの多い時期。この機会に、兵庫にまつわる神様について考えたり、普段の暮らしに感謝しながら神社を訪ね、いつもと違う視点で眺めてみよう。

日本の国生み伝説を知っているだろうか。古事記には「天つ神に国創りを命じられた伊弉諾神と伊弉冉神が、天の浮橋に立つて矛で海水をこおろこおるとかき混ぜると、矛先から滴り降った塩が自ずと凝り固まって島となった」とある。これが最初に誕生した自凝島。二神が降り立つてほかの島を次々に生み、日本の国土が形成されたという。いったい自凝島とはどこなのだろう。淡路島と周辺には候補地がいくつも存在するが、沼島が最有力と語るのは、淡路市・伊弉諾神宮の宮司・本名さん。「沼は古語でへ玉の意味。沼島は真上から見ると勾玉つまり生命体の形をしています。淡路島との間

まずは淡路へ、国生み伝説の沼島へ。

にフォッサマグナが通るため淡路島に属する島ではないなど、地質学的に貴重な場所なことも、国生みのドラマを連想させられます。

神話の象徴とされる海上の上立神岩を見るには、淡路・土生港から船で沼島へ渡り、沼島港から約30分ほどアップダウンの道を行くのが一般的だが、今回は島を知り尽くす、とらや渡船の虎澤さんの船で島を一周することにした。

空は快晴で絶好のクルージング日和だ。旧の船着き場を出発して程なく巨岩・奇岩が眼前に迫り、初めての景色に気分が高揚する。「下立神岩はもとは中央に穴があり、30m以上の高さがありました。室戸台風が直撃し下半分だけが残ったんです」と虎澤さん。続いて現れた平らな岩場・平バエは、「2人の神が降り立ち、夫婦の契りを交わした場所です」。バエとはこの辺りでは、磯のことをそう呼ぶ。そして、海原にそそり立つ上立神岩！海から天に向けてそそり立つ姿はまさに矛のよう。「天の御柱」や「竜宮の表門」と呼ばれる神々しいオーラに、兵庫の国生み伝説への思いを強くした。



淡路島の4km沖合いに浮かぶ沼島。昔から漁業が盛んでハマ、タイなどが有名。江戸時代には「沼島千軒、金の島」と呼ばれ、繁栄を遂げた。沼島水軍を率いた武将・梶原景時の墓も。



かつては上立神岩よりも高さがあった下立神岩。安政元年の大地震と津波で打撃を受け、さらに昭和9年の室戸台風で上半分が折れてしまう。島側から見るとほかの岩と判別しにくい。



波に洗われて黒々と光る平バエ。長さ約90mで「千畳敷」とも呼ばれる。旧暦の3月3日には、地元の漁師たちの漁船が周囲に集まり、海上安全と豊漁を願う春の神事を行う。



伊弉諾神・伊弉冉神を祀るおのころ神社。手つかずの自然が残る山道と急な階段を上った先にあり、山全体が神体山とされる霊験あたたかな空気が漂う。港から徒歩約25分。

☎0799-52-2336
(南あわじ市観光協会)
道案内／電車・JR神戸線舞子駅から高速バス福良下車、タクシーに乗り換え土生港まで約40分。または福良からコミュニティバス西町下車、バスを乗り換え土生港へ。車・神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICを南へ。県道31号線～76号線経由で土生港へ。土生港から沼島汽船で沼島港へ(1日10便・約10分)



「島めぐりは春の気候のいい時がお薦め」ととらや渡船の虎澤賢信さん。釣りの磯渡しが本業なので観光についての時間は要相談。1周約60分、1〜12名までで1,5000円。☎0799-1571-0034

高さ30mもの巨岩が存在することが、不思議に感じる上立神岩。その姿は二神が海をかき混ぜた矛先のように。青みがかった岩は光の具合によって刻々と色も変化。

※年末年始のお休み・営業時間などは変更する場合があります。確認してからお出かけください。

岩屋港のそばにある約2000年前の砂岩層が露出した絵島。西行法師をはじめ数々の歌に詠まれた景勝地には、橋で渡れる。



を日本人独特の豊かな感性で擬人化したのが神話なのだと思えます」と宮司の本名さん。

古代から米や魚介、塩などを朝廷に納め、「御食国」と呼ばれた淡路島。豊穡な海に囲まれ、肥沃な大地が滋味あふれる農作物を育み、「兵庫県の縮図」とも言えるおいしい食材に恵まれた島。そこで国生み伝説の舞台を訪ね、昔の人達が大切にしてきた自然を敬う心や神話に思い馳せることは、私たち自身を見つめ直す機会なのかもしれない。

もうひとつの国生み伝説を歩く。



木々の緑に鳥居の朱色が映える全景。神明造の本殿。拝殿前には2人の神に夫婦の仕草を教えた、つがいのセキレイが止まった石も。「国生み伝説は諸説ありますが、ともに栄えていければ」と禰宜の棚田万里子さん。



遠くからでも目を引く朱塗りの大鳥居は高さ21.7m。昭和57年に建てられた、日本三大鳥居の一つ。この辺りは三原平野の中の小高い丘陵地にあることから、かつては島だったという説も残る。楠が生い茂る中、石段を上って行くと拝殿があり、ご祈禱が行われる神楽殿を挟んで、奥に本殿が鎮座。裏には八百万の神を祀る摂社が祀られている。最近縁結びや夫婦円満の神として注目され、敷地内で取れた塩砂を安産祈願にもらい受けにお参りする人も多い。



かつては島だった伝説も。二神を祀る夫婦円満の神。自凝島神社



伊弉諾神・伊弉冉神が海原を矛先でかき混ぜる様子を描いた絵馬500円。夫婦円満のお守りは2つ1,500円。縁結び、安産などお守りの種類が豊富。



自凝島神社から西へ数100m離れた場所に、国生み伝説の遺跡が。「葦原の国」(左)は伊弉諾神・伊弉冉神が生んだ日本国土を指し、「葦が生えるほど水が豊かで、米づくりに適した豊穡な地」を表す。「天の浮橋」(右)は二神が降り立ったと伝わる。



本殿には伊勢神宮から譲り受けた榎の御柱があり、結婚の儀式では左右から男女が回り契りを交わす。境内には太陽の運行圏を表す「陽の道しるべ」があり、夏至には太陽が伊勢神宮の方から昇って対馬の海神社に沈むなど、伊弉諾神宮を中心に重要な神社が配置されている。「淡路島には国生み神話の壮大なロマンがあります」と宮司の本名孝至さん。



樹齢約900年の夫婦円満は高さ30m。2株の木が途中で一株になっていて根回り12.4m。2柱の神の御神霊が宿る御神木として、夫婦円満、子授け、良縁などの信仰を集める。



伊弉諾神が黄泉の国から逃げ帰る際、醜女に投げつけて身を救ったという桃を、困難から身を守る果実としてモチーフに。土鈴1,500円。セキレイは夫婦円満の御神鳥。絵馬500円。



伊弉諾神の幽宮。淡路の国の一の宮へ。伊弉諾神宮

いざなぎじんくう

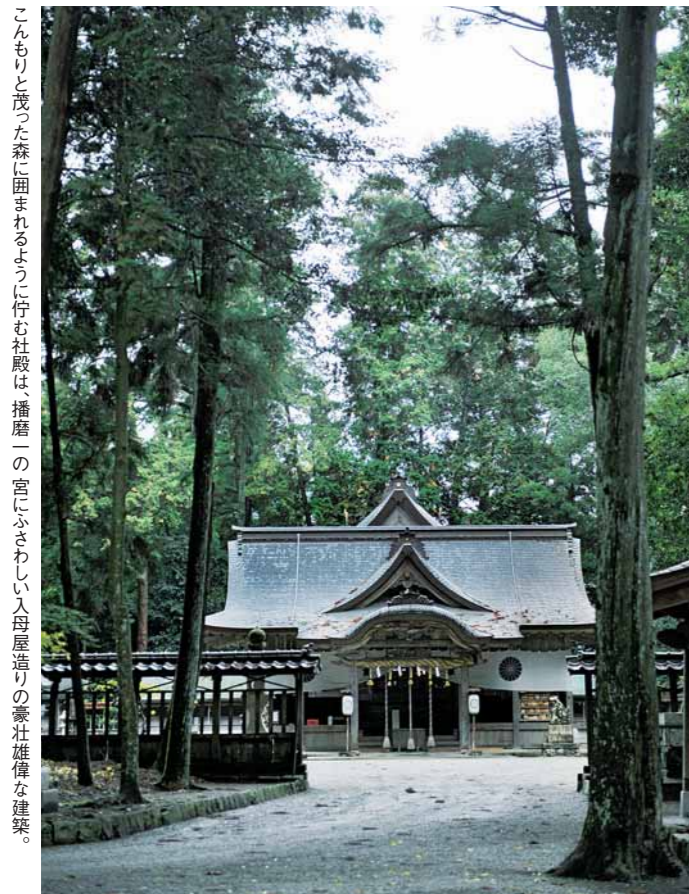


淡路市多賀740
0799-80-5001
午前8時30分～午後5時 境内参拝自由 P 30台 道案内/電車 → JR神戸線舞子駅から高速バス 都家下車、徒歩10分 車 → 神戸淡路鳴門自動車道津名一宮ICから県道88号線を西へ。津名一宮ICから約5分



南あわじ市榎列下幅多415
0799-42-5320
午前9時～午後5時 境内参拝自由 P 100台 道案内/電車 → JR神戸線舞子駅から高速バス榎列下車、徒歩10分 車 → 神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道うすしおラインを経由、西川交差点左折

伊和神社は延喜式神名帳に記載された歴史ある古社。「この静けさに癒やされるとおっしゃる方が多いですね」と宮司の安黒さん。本殿裏には社殿造営にゆかりのある鶴石が、境内西には通称弁天さんこと市杵島姫神社が祀られている。広い境内には夫婦杉をはじめ杉やヒノキの大木が群生し、まるで別世界へと足を踏み入れたような気分になる。



こんもりと茂った森に囲まれるように佇む社殿は、播磨一の宮にふさわしい入母屋造りの豪壮雄偉な建築。



由緒にちなみ絵馬にも鶴が。国土開発に尽力した御祭神・大己貴神から交通安全のお守りが人気。写真の絵馬800円、お守り500円。



播磨一の宮として古くから人々に崇敬されてきた伊和神社。国道29号線沿いの境内に茂る森は深く荘厳な雰囲気を感じており、「昔からこの森には神々が宿っていると感じる人が多かったようです」と宮司の安黒秀幸さん。神社では珍しい北向き社殿の由来となった霊石の鶴石や、女性を守る神様としても厚く信仰される市杵島姫神社など、境内を回れば各所で歴史の深みを感じられる。

神々が宿る深い森に
囲まれた静寂の神社。

伊和神社 いわじんじや



▷ 宍粟市一宮町須行名407
☎0790-72-0075
境内参拝自由 ◎約200台 道案内
/ 電車 → JR神戸線・山陽電車姫路
駅から神姫バス山崎下車、バスを乗
り換え、伊和神社前下車すぐ 車 →
中国自動車道山崎ICから国道29号
線を北上。山崎ICから約12km

縁起物



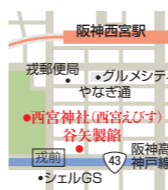
金運や商売繁盛を願う福銭錦守、鯛の刺繍がポイントの小守各500円、寅年の絵馬2000円。

漁師が網にかけた蛭子神をお祀りしたのが神社の始まりとの伝承が残る古社。この蛭子神は伊弉諾神・伊弉冉神が最初に生んで海に流した子とされ、神話との縁も深い。豊臣秀頼寄進の表大門から入ると境内は広く、池の畔には甘酒が名物の茶屋も。1月9日から11日の十日えびすでは、100万人以上の参拝客であふれかえるえびす様の総本社も、県指定天然記念物の森に囲まれ普段はとて静かだ。



福の神・えびす様総本社。
神話との関係も興味深い。

西宮神社 (西宮えびす) にしのみやじんじや



▷ 西宮市社家町1-17
☎0798-33-0321
午前8時～午後6時 境内
参拝自由 ◎100台
(十日えびすの際は駐
車不可) 道案内/電
車 → 阪神西宮駅から
南へ徒歩5分 車 → 阪
神高速西宮出口すぐ

上左/人形を操り、えびす様の神徳を伝えた傀儡(くぐつ)師の祖神を祀る百太夫神社。上右/伊勢神宮通所、ここからは遙かに神宮を拝み奉る。下左/神様だけが渡る瑞宝橋。「明治40年の創建と伝わります」と広報の泉さん。



三連春日造の本殿は全国唯一の構造。正月、十日えびすはえびす様が鎮座する本殿前での参拝可能。阪神タイガース必勝祈願祭もここで。



西宮神社の可愛い鯛みくじ300円。元旦から1/11までのみ登場する。

商売繁盛の神様として知られるえびす様は、漁業の神様。播磨風土記に登場する伊和大神(大己貴神)は、国づくりの神様。神様の座す「鎮守の森」に一步足を踏み入れれば、そこは神域。厳かな空気の中に身をおいてみよう。

町と共生する神社の森に導かれて。

立ち寄り

伊和神社に詣つた後は、新年のご来光を温泉で。

一宮温泉まほろばの湯

抜群の保温性を保つ食塩泉が自慢の温泉では、元旦の営業は早朝6時から。「対岸の高峰の山からご来光が9時頃上がるので、毎年元旦は朝から営業してます」と店長の福田さん。新年早々、湯船に浸かりながら初日の出が拝めるなんて、この上ないぜいたく。また、日本一といわれる特大サイズの絵馬を飾る御形神社もすぐ近くに。



露天風呂からは正面の高峰を一望でき眺望抜群。正月三が日は甘酒の無料配布も行われる。

▷ 宍粟市一宮町三方町家原624-1
☎0790-74-8164
午前10時～午後9時(1/1は午前6時～午後6時。レストランは通常午前11時～、1/1のみ午前10時～。いずれも受付は30分前まで) 火曜(祝日の場合は翌日)と12/31休 入浴料/大人600円、子ども300円、3歳以下無料、家族風呂2,000円(1時間)+入浴料◎90台 道案内/電車 → JR神戸線・山陽電車姫路駅から神姫バス山崎下車、バスを乗り換え、家原遺跡公園下車徒歩5分 車 → 伊和神社から約15分

レストランでは医食同源の考えに基づいたヘルシーな薬膳粥も。中でもお正月はおめでたい小豆粥がおすすめ。730円。

立ち寄り

小豆の風味が生きた、あんこ屋さんのきんつぽ。

谷矢製餡 たにやせいあん

昭和20年創業。和菓子店などに卸す餡をつくる技を生かし、10数年前に考案したきんつぽが評判に。「小豆は北海道産の粒がそろったものを。色鮮やかで形が崩れにくいのが特徴です」とお店の方。3時間かけて炊き上げ、冷やしながら1日寝かすことで、しっとりとした食感に。十日えびすの3日間は、赤門前でぜんざいの屋台も。



戎金餅きんつぽは3個350円から。甘さ控えめで、あんこ本来の風味を堪能できる。

「春先までは鳴門時を使った芋きんつぽも人気があります」とスタッフのお話。



▷ 西宮市本町8-1 ☎0798-22-4328
午前8時～午後5時 日曜、12/31～1/3休
◎1台 道案内/西宮神社から東へ徒歩5分

立ち寄り エスプリ・ド・フーケ

モダンなカフェで優雅にティータイム。
 09年で40周年を迎えた洋菓子店「フーケ」が展開する、ワンランク上の大人のカフェ。ムースやタルトを中心に、常時約20種類そろうケーキはオリジナリティ豊かで、見た目もスタイリッシュ。参拝の前後は、生田ロードを見下ろす2階のカフェで、ゆっくり優雅な時間を過ごしたい。



ワンズブーンスタイルがおしゃれなキャラメルフレッシュ(840円)は手土産にも薦め。店内でケーキとドリンクを頼めば、シャーベットと焼き菓子がサービスに!

▶神戸市中央区下山手通2-1-1
 ☎078-392-0103
 午前11時～午後11時(ラストオーダー午後10時30分) 無休 ①なし 道案内/生田神社正門から南へ徒歩2分

立ち寄り ふるもと珈琲店

初詣で味わいたい、薫り高い炭火珈琲。
 オープン以来35年間、大晦日は参拝客のために除夜の鐘とともに開店し、早朝4時まで営業を続けている珈琲専門店。「普段から女性客が多いので、生花を飾って華やかにしています」と店主の大野伸二さん。炭火珈琲の老舗・萩原珈琲の豆を使った珈琲は、どれもコクがあってまろやか。



▶神戸市中央区多聞通4-4-3
 ☎078-341-6607
 午前10時30分～午後8時(土曜・祝日は午後7時30分まで、1/1は午前0時～午前4時と午前11時～午後7時、1/2と1/3は午前10時～午後7時) 日曜、12/29～31休 ①なし 道案内/湊川神社西門から西へすぐ



神社北にある生田の森は「かつてはアワーロードから諏訪山まで広がる森だったんですよ」と権宮司の酒井さん。

街中にある名大社で恋愛成就と長寿祈願。生田神社



▶神戸市中央区下山手通1-2-1
 ☎078-321-3851
 午前7時～日没まで 境内参拝自由(生田の森は午前10時～午後4時) ※年末年始の開門時間=12/31は午後6時まで、1/1は午前0時～午後11時、1/2は午前7時～午後10時、1/3は午前7時～午後9時 ①100台(12/29～1/4は使用不可) 道案内/電車→各線三宮駅から北東へ徒歩5分 車→中山手通・神戸税務署西側の道路を南へすぐ



誕生月ごとの花守(500円)や、桜恋守り(700円)など、お守りはどれも女性好みのデザインが魅力。右ページの干支の絵馬は500円。

名将大楠公を祀る神社で開運招福・除災厄払いを祈る。湊川神社



▶神戸市中央区多聞通3-1-1 ☎078-371-0001
 境内参拝自由 ※年末年始の開門時間=12/31は午前6時30分～1/1は午後11時30分まで、1/2と1/3は午前6時30分～午後11時30分、1/4は午前6時30分～午後7時30分、1/5以降午前6時30分～午後5時30分 ①20台(1/1～1/3は使用不可) 道案内/電車→JR神戸線神戸駅から北へ徒歩5分、または高速神戸駅下車すぐ 車→国道28号線湊川神社前の交差点北側



楠木正成公に由来した兜型のお守り(500円)やしあわせ守(1,000円)。どちらも厄除け・開運招福を願って。右ページの鮮やかな絵馬は500円。

肌身守は和紙の柄が雅やか。500円。小振りサイズが可愛い鬼面絵馬は全7種類で各500円。もとは節分時の絵馬だったが、参拝記念に求める人が多く、通年購入できる。右は古くから長田神社の神使いとして尊ばれた鶏の絵馬500円。戦前まで境内には色とりどりのヒナがいたそうで、別名「ひなの社」とも呼ばれていた。このほか毎年干支の絵馬も登場。



境内の楠宮福荷神社裏にある楠は樹齢800年の御神木。「赤い絵馬を奉納して痔病をはじめ、病気平癒を祈願される方も多くいます」と、権宮司の脇さん。



西暦201年創建の名大社は、日本書紀にもその名を記す。ご祭神である事代主神は「福の神」としてあらゆる産業の守護神、開運招福・厄除けの神として崇敬され、「長田さん」として古くから親しまれている。境内には霊験あらたかな楠宮福荷社や15世紀の黒漆金銅装神輿が展示される宝物庫も。また、県の重要無形民俗文化財になった節分の追儺式など、伝承文化の功績も大きい。

福の神様「長田さん」に商売繁盛を願って。長田神社

▶神戸市長田区長田町3-1-1
 ☎078-691-0333
 午前6時～午後6時(4～9月は午前5時から) 境内参拝自由 ①30台(12/30～1/3は使用不可) 道案内/電車→高速神戸鉄道・地下鉄山手線長田駅から北へ徒歩5分 車→阪神高速柳原出入口または湊川出入口から北へ約5分

立ち寄り ほうらく堂

神社前の商店街で。口どけのいいお饅頭を。
 長田神社前へと続く商店街にある、和菓子の老舗。ほうらく饅頭は、かつて傷痍軍人救済のため将校夫人たちがつづいて純益をあげていたお饅頭で、北海道十勝産小豆を使った風味豊かなあんとしっとり口どけのいい皮が絶妙。あっさりした甘さとさっぱりした後口は幅広く愛されている。



▶神戸市長田区5番町8-1-4
 ☎078-576-0912
 午前9時～午後6時(月曜は正午まで) 無休 ①なし 道案内/長田神社から南へ徒歩3分



3代目の五嶋靖浩さん。「神戸市内の小・中学校の卒業祝いなどにも利用してもらっています」。ほうらく饅頭1個74円。白(つぶあん)、抹茶(こしあん)、赤(白あん)の3種類。

縁起を見つげに、神戸三社参りへ。

江戸時代から始まったとされる「神戸三社参り」。1800年の歴史を誇る長田神社と生田神社、名将を祀る湊川神社、三社と言われる神社はいずれも街中であってアクセスも至便。それぞれの御祭神に祈願して、新しい年の縁起をかつぎたい。



各社の狛犬を見て回るのも楽しみのひとつ。角が生えた出石神社粟鹿神社には木製の狛犬が、養父神社は珍しい狛狼、精悍な顔立ちの小田井縣神社、絹巻神社は子どもを抱えた狛犬が見られる。

数々の逸話も残る 朝廷の尊崇厚い古社。 粟鹿神社 あわがじんじや

創建は約2,000年以上前と古く、それだけに境内は清浄な雰囲気包まれた神域といった感じ。「昔から神徳の高い神社として朝廷の尊崇が厚く、国家の大難の際に勅使が派遣され、それを記念した勅使門が今も残っています」と宮司の大杉和子さん。勅使門門扉にある首を切り落とされた鳳凰の彫刻や、茗荷神社の豊作占い神事など、歴史に彩られた興味深い話も多数伝わる。



荘厳な雰囲気に満ちた延喜式に定める明神大社。秋の大祭には子ども相撲のほか、「瓶子わたし(さあござれ)」といわれるユニークな神事も開催される。お守り500円。



▷朝来市山東町粟鹿2152
☎079-676-2465
境内参拝自由 ◎70台 道案内/電車
→JR播但線和田山駅から全但バス粟鹿神社下車、南へ徒歩約10分 車→北近畿豊岡自動車道山東IC下車すぐ

文化財的な価値も高い古社をゆつくりと散策したい。



2009年4月の港大橋単歩道橋架設に伴い、境内も模様替え。御祭神は天火明命(あめのひばこ)。お守り500円。

絹巻神社 きぬまきじんじや

円山川河口にかかる港大橋の東詰めに鎮座し、まるで海を見据えるように社殿が北向きに立つ。「場所柄、海部直命や船魂神など、海にまつわる神々を数多く祀っています」と宮司の花光亮さん。周囲の絹巻山は、暖地性原生林として県の天然記念物に指定されている。

▷豊岡市気比4006
☎0796-28-2468
境内参拝自由 ◎約15台 道案内/電車→JR山陰本線城崎温泉駅から全但バス絹巻神社下車すぐ 車→北近畿豊岡自動車道・播但連絡道和田山ICから国道9号線～国道312号線を経て、和田山ICから約90分



豊岡三大氏神の一つ。本殿は流麗な春日造りで、元文年中に造営されたものになる。お守り500円。

小田井縣神社 おだいあかじんじや

延喜式にも記される式内社で、この地方の開拓の祖神である國作大己貴命を祀る。境内には本殿のほか、4つの神社があり、なかでも柳宮神社はもともとこの地で良質の杞柳がとれたため、盛大な祭典を行うようになったとか。現在は豊岡の産業である「鞆の神様」としても知られる。

▷豊岡市小田井町15-6
☎0796-22-2029
境内参拝自由 ◎約6台 道案内/電車→JR山陰本線豊岡駅から北西へ徒歩15分 車→北近畿豊岡自動車道・播但連絡道和田山ICから国道9号線を経て、大屋橋交差点を東へすぐ。和田山ICから約15分



社殿は椋皮葺の屋根を持つ但馬を代表する神社建築。彫刻の見学希望は社務所まで。お守り500円。

養父神社 やぶじんじや

〈養父の明神さん〉と呼ばれる式内社。「かつて桜の名所として出石藩主が訪れ、戦国大名の朝倉高景が武功を祈願したりと、但馬を代表する大社として親しまれてきました」と宮司の伊藤千可志さん。その名残から本殿には豪華な彫刻が随所に見られ、紅葉の名所としても有名。

▷養父市養父市場840
☎079-665-0252
境内参拝自由 ◎50台 道案内/電車→JR山陰本線養父駅から全但バス、養父明神下車すぐ 車→北近畿豊岡自動車道・播但連絡道和田山ICから国道312号線を経て、大屋橋交差点を東へすぐ。和田山ICから約15分

巡られている人が多いです」と、出石神社宮司の長尾家典さん。境内の凛とした雰囲気、社殿の造形美など、いずれも格式ある古社なので、それぞれに見ごたえがある。

そのうえ養父神社では狛犬がオオカミの形をしていたり、粟鹿神社の七不思議といわれる勅使門の鳳凰の話など、興味深い話や意匠にも遭遇。福と歴史をたどつての冬の但馬五社巡りで、また兵庫を再発見する。

福を求めて。 但馬五社めぐり

豊岡市の出石神社、絹巻神社、小田井縣神社、養父市の養父神社、朝来市の粟鹿神社。但馬地域にあるこの五社を総称して「但馬五社」といい、初詣にそろって巡るとご利益があると言われる。

それぞれの神社間はちょうど3里。延べ約50kmの道のりを福を求めて巡る旅は、初春らしい小旅行だ。「社伝の『一宮縁起』によると、江戸時代から五社明神をお参りするようになったようですね。初詣や旧正月の節分の時期に、



地元で親しまれる 但馬の「一宮」。 出石神社 いすしじんじや

▷豊岡市出石町宮内99
☎0796-52-2440
境内参拝自由 ◎50台 道案内/電車→JR山陰本線豊岡駅から全但バス鳥居下車、東へ徒歩7分 車→北近畿豊岡自動車道・播但連絡道和田山ICから国道9号線～国道312号線を経て、出石方面へ。和田山ICから約25km



但馬五社の中で最も格式の高い一宮だが、地元では(いっきゅうさん)の愛称で親しまれる。由緒は但馬開発の祖神である天日槍命が八種の神宝を奉じ、出石に祀ったことから。「古事記や日本書紀にも登場し、かつては一の鳥居から社殿まで5kmはあったそうです」と宮司の長尾さん。境内には古代より一木一草も刈り取られることがなかった、禁足地とされる聖域がある。



最近では全国の一宮巡りが盛んなことから、遠くからも多くの参拝客が訪れる。絵馬には御祭神の天日槍命の但馬開拓の伝承が描かれている。絵馬500円、お守り500円。



神社はあなたを待っている。

【参拝の手順】

一 鳥居の前で一礼。

神様の領域に入るため「おじゃまします」のご挨拶を。

二 手水舎で身を清める。

手と口をすすぎ、心身を清める（口をすすぐときは手のひらに水をため、柄杓には口をつけないように注意）。

三 神前に進む。

軽く一礼し、賽銭箱にお賽銭を入れ、鈴の緒を持って鈴を鳴らす（鈴を鳴らすのは神様に気づいてもらう合図との説も）。

四

深々と二回、拝礼。

五

ゆったりと手を二回打つ。

手を合わせた状態で神様にお願い事を。

六

最後にもう一度、拝礼。

※「二拝、四拍手、一拝」の出雲大社のように、拍手や礼の回数異なる神社もあるのでご注意ください。

神社参拝の基本作法を知っておこう。

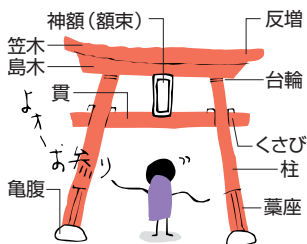
お参りする時に、自分のやり方が合っているかどうか作法がわからない、と言う人は多いはず。お寺と神社のお参りの違いは、お寺では両手のひらを合わせて合掌し、そのまま頭を下げたお祈りをし、神社では「二礼（拝）、二拍手、一礼（拝）」で、一番の

違いは手を打つかどうか。参拝前、鳥居や門前で一礼したり、手水舎で身を清めたりする（右手に柄杓を持ちます左手を清め、次に左手に持ち替え右手を清める）のは同様。何より、神様や仏様を敬い。純粋な気持ちで、心からお参りすることが大切だ。



伊和神社境内にある、播磨旧十六郡内の式内社を祀る播磨十六郡神社。

神社の門の役割を果たす鳥居のルーツは諸説あるが、鳥居をくぐり境内に入るとは、神の座す神域に入るとのこと。鳥居の構造はシンプルだが、その大きさや形、色、材質はさまざまにある。基本的な名称を知って、神社を訪れる際に、あらためてその違いを見直してみよう。



今回出合った鳥居は…

写真上から、遠くからでも目立つ自凝鳥神社の大鳥居。街路に向かって立つ石の鳥居を抜けると小田井縣神社の境内が広がる。伊弉諾神宮の鳥居は直線的な神明系。円山川のそばに建つ絹巻神社の鳥居。西宮神社境内の小高い山の上に立つ小さな鳥居は神宮の方角を向く。



神様と人間の境界を仕切る、鳥居。

邪気を払う役割として、本殿や拜殿前、参道などでにらみをきかす狛犬。獅子の姿は、古代エジプトの支配者の象徴とされ、神殿や墳墓に置かれたライオンが原形。それが中国に渡り獅子像となり、日本には朝鮮半島から伝わった高麗犬が転じたものだと言われる。一般的に向かって右側が阿形、左側が吽形で、両方の像を狛犬と呼ぶ。古いものだと頭上に角があるものがあり、この場合は角のある方が狛犬、ない方が獅子で、一対で獅子狛犬と称する。大きさも表情もさまざまな狛犬の躍動感を観察するのもおもしろい。

今回出合った狛犬は…

写真上から、県道に面した大鳥居のそば、青空に映える伊弉諾神宮の狛犬。迫力満点の狛犬に生田神社で遭遇。養父神社では田畑を荒らす害獣が恐れるオオカミが神の使いに。湊川神社では焼き物の狛犬が見られる。粟鹿神社の狛犬は苔がむし歴史を感じさせる。



狛犬いろいろ。表情を見るのも楽しい。